

かながわ露頭マップ 「夕日の滝断層」

小田原 啓 (神奈川県温泉地学研究所)

はじめに

南足柄市地藏堂には、夕日の滝という風光明媚な観光地があります。近くにはキャンプ場やバンガローがあり、夏場のアウトドアを楽しむのには絶好の場所です。今回は、地質屋の目から見た夕日の滝を紹介したいと思います。

場所：南足柄市地藏堂。(図 1)。

緯度経度：北緯 35 度 18 分 37 秒、
東経 139 度 1 分 32 秒 (世界測地系)

アクセス：大雄山線の終着駅である大雄山駅前の関本バス停から地藏堂行きのバス(箱根登山バス)に乗り、おおよそ 30 分程度で地藏堂に到着します。地藏堂のバス停からは、歩いて 15 分程度で夕日の滝に到着します。

夕日の滝

夕日の滝は、落差約 23m、幅 5m の滝です (写真 1)。南足柄市の指定文化財となっており、市が設置した看板には、夕日の滝の名前の由来や、金太郎伝説との関わりなどが記されています (写真 2)。

夕日の滝断層

今永 (1999) の地質図 (図 2) を見ると、夕日の滝断層という断層が描かれています。今永 (1999) によると、箱根火山噴出物と足柄層群南端部の境界にあたる東西性の高角正断層で、滝壺側に足柄層群、滝

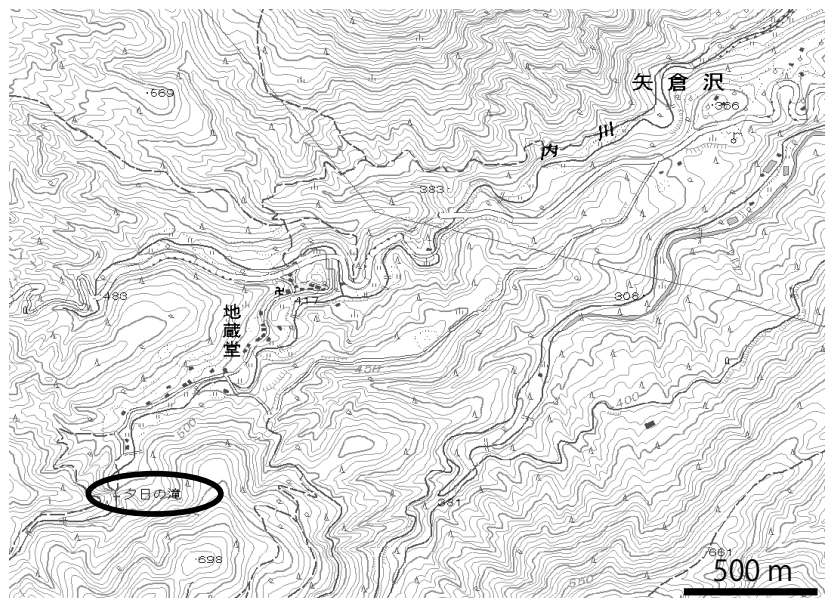


図 1 夕日の滝の位置。(国土地理院 1:25,000 地形図「関本」より作成)



写真 1 夕日の滝。
落差約 23m、幅 5m の滝。

の面に箱根火山噴出物が露出するとされています。この箱根火山噴出物は、日本地質学会が2007年に出版したリーフレット「箱根火山」の地質図によると、狩川溶岩グループとされています。

夕日の滝断層は、新編日本の活断層(1991)にも掲載されています。

確実度 I、活動度 B、長さ 3km、平均変位速度が 1000 年あたり 0.1m とされています。

夕日の滝はまさに断層が作った崖を落ちる滝なのです。

おわりに

今回は、夕日の滝断層を紹介しました。滝や溪谷といった岩石が削られて出来る景勝地は、それぞれのが地質露頭であるという一例です。

滝を見るときに、流れ落ちる水だけでなく、その後ろの露頭にも注目してみると面白いと思います。次回以降も、少し変わった視線で見ると、面白い露頭を紹介していきたいと思っています。

参考文献

今永勇(1999) 足柄層群の構造。 神奈川博調査研報(自然), 3, 41-56.

日本地質学会編(2007) 国立公園地質リーフレット1「箱根火山」, 日本地質学会, 東京.

活断層研究会編(1991) 新編日本の活断層. 東京大学出版会, 東京.

訂正

前回の観測日より 59 号の参考文献の中で、「山崎晴雄(1971)」とありますが、正しくは「山崎稲雄(1971)」でした。関係者にお詫びするとともに、訂正します。



写真2 夕日の滝の案内板と市史跡の碑。

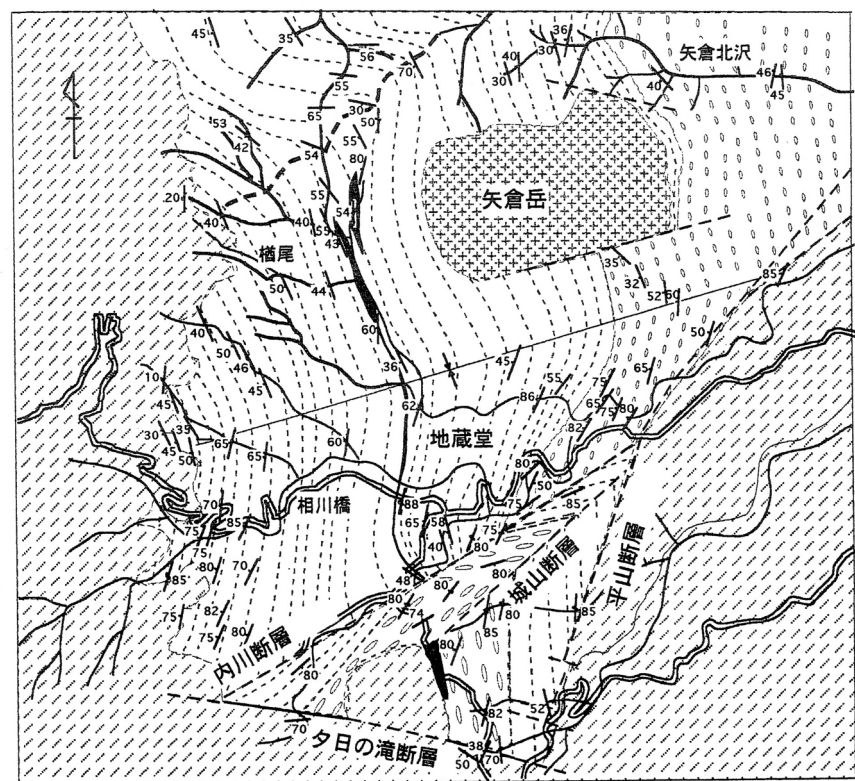


図2 今永(1999)による地蔵堂付近の地質図。